

評価細目の第三者評価結果（保育所）

評価対象 保育所 付加基準

A-1 保育内容

		第三者評価結果
A-1-(1) 保育課程の編成		
A ^①	A-1-(1)-① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	b 全体的な計画は、年度末に指導計画で評価、見直しを行い、次年度の全体的な計画に反映している。園として地区センターや近隣などとの関わりを持っていることから、小規模保育園（0・1・2歳児）としての実態に応じて、全体的な計画に連動性を持たせ作成していくことに期待したい。
A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開		
A ^②	A-1-(2)-① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a ワンフロアの小規模乳児保育園のため、年齢児別に仕切りを設け、食事、睡眠、遊具等の配置の工夫をしている。室内は、温度計、湿度計、除湿器、空気清浄機等を利用して室内環境を整えている。トイレのスペースは狭いが、オマルを設置し、発達年齢に合わせた時間差で子どもをトイレへ促している。
A ^③	A-1-(2)-② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	b 個別の指導計画に、子どもの気持ちを受け止めながら状況に応じて1対1のかかわりを多くするなどの、援助方法を記録している。子どもとの関りは、保育マニュアルをもとに職員間で共有し、子どもの欲求や気持ちに添っていきため、切れ目のないよう保育を行っている。ワンフロアの小規模保育園であるため、職員は声のトーンに配慮している。子どもの表出する気持ちを理解するため、健診や子育て支援センターと連携している。今後、一人ひとりの子どもを受容していくために、子どもの状態を記録して、援助が行われることを期待したい。
A ^④	A-1-(2)-③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a 基本的な生活習慣（食事、排泄、睡眠、着脱、清潔など）を身につけることについては、牛乳パックで作った着脱用の椅子を設けて、子どもが自分でやろうとする気持ちを育てている。靴下ケース等には一人ひとりの子どものマークを貼り分かるようにしている。トイレトレーニングは家庭と連携しながら進めている。食事、着脱、睡眠に際しては、子どもが安心できるようにスペースを確保して環境を整え、生活場面毎に移動の援助をしている。
A ^⑤	A-1-(2)-④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a 園庭がないため、戸外で遊ぶことを意識して園周辺の散歩や公園に行き、体を動かすことを取り入れている。散歩は、0歳児と1歳児、1歳児と2歳児など、異年齢で交流して戸外で遊ぶ環境を確保している。0歳児、1歳児、2歳児の発達に応じて、手作り玩具など整え、コーナー分けをして自発的に遊べるようにしている。月に1~2回、外部講師による歌や体操を行っている。
A ^⑥	A-1-(2)-⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a 0歳児の生活と遊びの空間は、子どもの手の届くところや目の位置に玩具を配置して、身の周りのものに興味と関心が持てるようにしている。つまむ、たたく、ひっぱるなど、手や指を使って遊べる手作り玩具を揃えている。担当保育士を特定し、愛着関係を築き一人ひとりの生活リズムで過ごせるよう配慮している。送迎時のあわただしい時間帯は、職員間でフォロー体制を取って家庭と連携している。

A⑦	A-1-(2)-⑥ 3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	1歳児は、指先コーナー、ままごとコーナーを設定し、2歳児は、手作り人形を一人ひとりの子どもが自分用として持っている。また、段ボールのお家、電車・テーブル・椅子など手作りのものを設定し、イメージのある遊びや自発的な活動ができるよう限られた空間の中で環境を整えている。子どもの発達段階の差が大きいため、低月齢の子どもは0歳児と遊ぶなど、0・1・2歳児の保育の中で、子どもの発達に応じて交流をしている。
A⑧	A-1-(2)-⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	評価外	小規模保育事業のため評価外とする。
A⑨	A-1-(2)-⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	評価外	小規模保育事業のため評価外とする。
A⑩	A-1-(2)-⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b	小規模乳児保育園としての家庭的な雰囲気を生かして、静の活動を取り入れ、ゆったり過ごせるようにしている。また、子どもに希望の遊びを聞きながら保育を進めている。16時30分以降は合同で過ごしているが、その時の子どもの状況によっては部屋を変えるなど柔軟に対応している。保護者とは、全職員が子どもの情報を把握して対応できるようにしている。今後、保育内容や方法、職員の協力体制、家庭との連携などを指導計画に位置づけて実施していくことに期待したい。
A⑪	A-1-(2)-⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	評価外	小規模保育事業のため評価外とする。
A-1-(3) 健康管理			
A⑫	A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている。	b	送迎時に、家庭と情報共有して一人ひとりの子どもの健康状態を把握している。インフルエンザ等の感染症の情報はクラスだよりで発信したり、その都度、掲示をして保護者に知らせたりしている。また、市役所を通して、毎日保健関係の情報を把握している他、救命救急研修を実施している。乳幼児突然死症候群(SIDS)対策として、睡眠時にチェック表をつけ、子どもの様子を把握している。今後、SIDSについては、職員が迅速に対応できるよう定期的に周知と実地訓練等を継続していくことに期待したい。
A⑬	A-1-(3)-② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a	歯科健診は年に1回行っている。園では1歳から歯みがきを実施して、乳歯で気になることがあれば、保護者に連絡し、歯科検診につなげている。嘱託医、保護者と連携し適切な援助が受けられるようにしている。歯ブラシは殺菌庫に保管している。
A⑭	A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	b	アレルギー対応ガイドラインをもとに、子どもの状況に応じた対応を行っている。アレルギー食の提供時は別のテーブルを用意し、職員がそばについている。現在、アレルギー疾患のある子どもは園にいないが、全職員がいつでも対応できるように、アレルギー対応ガイドラインをもとに園内研修を行っていくことを期待したい。

A-1-(4) 食事		
A ¹⁵	A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a 食育計画を作成して、0歳児は離乳食から普通食への移行を家庭と連携して進めている。「三角食べ」を基本として子どもの食べやすい食器を使用している。また、食事の量を少なめにして、不足であれば、おかわりができるようにしながら、子どもが達成感をもてるようにしている。子どもとプランターでミニトマト等を栽培し、収穫して給食に提供している。ミニトマトは食べやすいように4等分にするが、提供する時にはトマトの形に戻し、トマトだと分かるように工夫している。給食だよりを保護者に発信して食に関心が持てるようにしている。
A ¹⁶	A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a 給食会議では、食材の刻みや喫食状況などを話し合い、献立、調理に反映している。また、刻みについては、全部細かくするのではなく、子どもの発達段階に合わせてニンジンやきゅうりなどを噛めるような大きさにするなど、子どもの状況に合わせて提供している。旬の物や季節感のある食材を取り入れている。

A-2 子育て支援

		第三者評価結果
A-2-(1) 家庭との緊密な連携		
A ¹⁷	A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a 保護者とは、日々のコミュニケーションを大切にするとともに個別面談を行っている。保育参観は4日間の日程を設定して、保育内容に合わせて、外遊びの様子や、園内は窓越しからも見られるようにしている。地区センターを利用して親子レクリエーションを行い、保護者と職員が交流する機会を設けるなど、小規模乳児保育園としての選択肢を広げている。
A-2-(2) 保護者等の支援		
A ¹⁸	A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a 保護者の相談には、送迎時に対応できるように職員の体制を整えて応じている。職員は、子ども間のトラブルや怪我などの保護者への説明を、適切にできるように標準化している。保護者が子どもとゆっくりとした時間を家庭でも持てるように、外部講師による「わらべ歌を親子で楽しむ」の企画を立てて、安心して子育てできる環境の作り方を提案しながら、保護者の支援をしている。
A ¹⁹	A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	b 虐待防止マニュアルを作成し、朝の受け入れ時や着替え時に視診を行っている。また、毎月の身体測定時に体重や身長を増減などを確認して、チェックリストにそって記録をつけている。チェックリストは、振り返りの資料として職員会議で共有している。家庭での虐待等権利侵害が疑われるような場合は、子育て相談センターと連携している。全職員で虐待防止研修を行っているが、早期発見・早期対応について、継続的に意識づけを行っていくために、定期的に園内研修をしていくことに期待したい。

A-3 保育の質の向上

		第三者評価結果	
A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）			
A⑳	A-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	b	「自らの保育を捉える視点」として保育の場面で保育士の援助、言葉のかけ方、保育士のかかわり方は適切であったかなど、子どもへの対応を共通にしていくことを話し合っている。「子どもの育ちを捉える視点」としては、0歳児から1歳児になったとき子どもがどのように成長してきたか、その育ちを見て玩具の設定など環境構成を検討している。指導計画の見直しをもとに環境構成、保育士等の援助の振り返りを行っている。このような職員間の話し合いをまとめて職員全体で協議し園全体の自己評価につなげていくことを期待したい。